

学校だより

# にしづえ

甲斐市立双葉東小学校

平成21年3月13日号

## 有終の美を！

今年は暖冬の影響で雪も少なく、明るい陽ざしが桜の予想開花日を早めている。気象庁発表では甲府盆地の開花予想日は3月20日頃だそうだ。心待ちにしていた春の訪れはうれしいが、平成20年度もいよいよ残り少なくなってきたことを思うと複雑な心境である。1ヶ月後、双葉東小学校の今日の日は、すでに入学式も終え、新体制での授業も始まっている。6年生は中学に進学し、新1年生として中学校の授業を受けていることを思うと、不思議な気分になる。「1月は行く。2月は逃げる。3月は去る。」とは昔の人は良く言ったものだと感心する。本当に時間の過ぎるのが早く感じる。そして私は1年間を振り返り、「双葉東小学校の校長として言動はこれでよかったのか」、そして「子どもたちに学べと話す以上、校長も学ぶ校長として頑張ったのか」等々、反省しきりである。

ところで、本校は10分間朝読書の実践を行っている。3月10日(火)の朝読書の時間である。私は各教室を見回った。最初は職員室の上にある3年生の各教室から。3クラスともほとんどの子どもたちが真剣に読んでいる。3年生の総合的学習の時間で、世界各国調べとその発表は見事だったなあ、と思いながら図書館の前を通り1年生のいる1階へ。なんとと言っても姿勢の良い読書振り。1年間でよくここまで読書できるようになったと感心しながら2階へ。そこには2年生と4年生の教室が並んでいる。4年生の教室の前では、担任が一人の子どもと話をしている。教室内では読書を熱心に行っている。それにしても4年生と2年生は読書量が多い。多ければ良いというものでもないが、数値として表される事実はその取り組みのすばらしさを表している、と考えながら、2年生の教室に近づく。どの教室も静寂に包まれ、ほとんど一人ひとりが本の中



朝の10分間読書の様子

に入っている姿があった。1・2学期、本を開けることの出来なかった児童が、このところ本に向かっている姿を見ることが多くなった。これまでの担任の努力を思い、おもわず出た笑みを浮かべながら3階へ向かう。ところが、どこからともなく話し声が聴こえて来た。その教室の前に立つと騒がしさが一層増して来た。6年生の教室である。5月の学校便りで修学旅行の様子を伝える文章の中で「みんなで大きな声で歌える元気な団結の1組、時間を守り一度も全体に迷惑をかけなかった2組、どんな時も一人ひとりが思いやりのあるやさしい3組。今後それぞれの学級が担任の指導のもと、良い面を全面展開していつてもらいたい。他のクラス・学年・学校に影響を与えていつてもらいたい。」と書いたことを思い出した。あれから約1年。今どうであろう。心身ともに成長した姿がそこにある。仕方のないことだが、12月1日から始まった校庭全面改修工事は児童に迷惑をかけている。特に成長著しい6年生は心身を持って余している。6学年は、男子も女子も一人ひとりの個性があふれており、様々な力量を持った子どもたちの集団である。非常にパワーがあり、将来楽しみな子どもが多い。だからこそ揉め事も、問題も多い。そのたび、主任を中心に各担任が精一杯の努力をして数々の成果も残してきた。この現象もその一つである。教室に入り注意を促し、そして全員読み始めたのを確認し、「悩み事や、揉め事は必ず将来の糧になることは間違いない。解決できる問題は多いほうがいい。何年後か必ずいい思い出として残るだろう」そう思いながら5年教室に向かう。そこには窓越しから見える読書に没頭する後姿があった。「来年は俺たちに任せておけ」そう主張しているようである。それにしても『6年生に贈る会』の5年生の姿にはたのもしさを感じさせられたなあ、と思いながら教室を後にした。階段を下り、廊下を歩き

ながら考えた。「4月当初から時々見回りに行くが、教師も子どもと一緒に本を読んでいる学級は、1年経った今、ますます読書に対する姿勢が良くなっている。担任によっては、子どもたちの提出物のチェックに忙しく、子どもたちと高々10分間の読書も出来ないが、工夫と努力をして一緒に読むことが大切であろう。新年度からは校舎内にいるすべての子どもたち・教職員が10分間読書をしてみよう。よし！」



6年生愛校作業でのトイレ掃除

そして、校長室に戻り私も本を開いた。

あと数日で卒業式がやってくる。6年生は、通常授業をしながらであるが、証書授与の練習をはじめ、卒業式に向けての取り組み真っ盛りである。先日もお世話になった各教室や校舎の清掃作業を行った。みんな一生懸命担任と共に作業を行っていた。そんな6年生の後姿を見ると寂しさがこみ上げてくる。朝読書から始まる1日の学校生活。授業。清掃。等々。当たり前のことを当たり前のように淡々と実行できる6年生として、あと残り数日間、1～5年生の見本になれるよう『有終の美』を飾ってほしい。

## 園児の訪問～卒業する子どもたちがいれば入学する子どもたちも～

3月2日（月）、4月に小学校入学するかわいい園児たちが、保育園の先生の引率で学校見学に来た。1月28日に引き続き2園目である。1学年の先生方のアイデアで、今年度は初めての学級ごとに学校の様子を紹介した。1つ目のクラスは出迎えの会から園児と手をつなぎ、普通教室や図書室・コンピュータ室といった特別教室を案内した。校長室でも、お兄ちゃん・お姉ちゃんぶりを発揮し、園児の手をしっかりと握り締め鼻高々と私の机の前を通り過ぎていった。ほほえましい光景であった。それが終わると次のクラスは教室で学習の様子を見せ、そのまた次のクラスでは体育館で園児と一緒にゲームを行った。そして最後のクラスは教室で歌と折り紙をプレゼントし、外に出て見送り式を行い入学への歓迎の意を表した。そして、園児たちも先生方も大変喜んで帰っていった。1月28日には理事長先生が保育士の先生と共に、園児に付きっきりで行動し大変感動して帰られ、後日、園長先生がそのことでわざわざ来校されお礼を述べられたほどであった。

1年生の先生方の狙いは見事に当たったように思う。この機会を利用し、単なる案内ではなく、交流形式を通じて、お兄ちゃん・お姉ちゃん気分を味わせたものになった。2年生になる心構えが出来た機会でもあった。そして、まさに「心の教育を中核とする東小教育」の柱の一つである『自尊感情』の高まりそのものであった。



読み聞かせをする1年生



# ありがとうございました。

平成20年度双葉東小学校便り「いしずえ」も最終号となります。1年間拙い文章をお読みいただきありがとうございました。学年・学級通信が出されていますので、少しでも学校全体の様子や課題等をお知らせし、家庭と学校をつなぐパイプ役になればと、心がけてきました。しかし私は本来文章を書くのが苦手ですので、たった1ヶ月に一度の発行にもかかわらず、目的が達成されたのか疑心暗鬼です。毎日毎日すばらしい文章を掲載する山梨日日新聞「風林火山」の、記者の爪の垢を煎じて飲みたい気持ちです。

ところで、教育は百年の体系といわれますが、学校といえども実は1年1年が勝負です。「夢と、まっすぐな心とそれに裏打ちされた輝く瞳」を子どもたちに持たせなければなりません。そのためには学校は学ぶ場であり、安全で楽しくなければなりません。そして今年1年、私たち教職員一丸となって努力してきましたが、いかがだったでしょうか。

様々なことがありましたが無事1年間が終了しそうです。これもひとえに保護者の皆様や地域の方々の支援とご協力のおかげと感謝しています。1年間ご支援ご協力ありがとうございました。

「わが命 注げるクラスの 子らがみな 我に似てきぬ 良きも悪しきも」